

キラッと光る “甲賀”を発見したい 富田聡美

「まちかど特派員」として早や2年、素敵なひと・もの・ところがいっぱい。甲賀を日々感じつつ、なかなか寄稿させていただけませんでした。人との出会いの中でとても楽しい時間を過ごさせていただきました。今後も一期一会を大切に、キラッと光る「甲賀」を発見していきたいと思えます。

広 知られていないようではまだ訪れたことがない方が多いのではないのでしょうか？旧東海道土山宿の古い町並みが残る街道。そこには、軒を連ねた家並みや格子戸、何処からともなく漂うお茶の香り…。歩くだけで往時の旅人の気分を味わえます。東海道伝馬館や旅行く人の疲れを癒す御茶所、昔の面影を残す民芸店など趣あるたたずまいがたさん見られます。



みんなでつくる！ 素敵な「こうか」 杉山祐子

今 回お会いしたのは、水口町三大寺の木田たつゑさん。自分の家の敷地ではない道端の草むしりをしてくださっているところに、私は偶然通りかかりました。「ありがとうございます。」と声をかけ、少し立ち話。「主人と話し合って2年ほど前から道端の掃除を始めることにしたそうです。「声をかけてくれた私もほんわかした気分になりました。」土地があり、そこに住む人がいて、街は作られています。年齢、性別、国籍等いろいろな立場の違う人が関わりあって、様々な出来事が起こっています。その中で、こんなささやかな心のふれあいが「素敵なまちかど」を作っていくんだらうな、と私は思います。道ですれ違う見知らぬ人にあいさつしたら、笑顔で返事が返ってくる。便利になっても人口が増えても変わらぬあたたかさ。そんな甲賀が私は大好きです。特派員を通じて地域の良さを再発見させてもらいました。「少しでも気持ちいい街」と、木田さん

11月に甲賀市で開催 第61回全国お茶まつりへ向け 朝宮茶も意欲満々 小谷柳太

新 年を迎えた甲賀市の茶どころ土山・朝宮では11月に開催予定の第61回全国お茶まつり滋賀大会に向けて意欲を燃やしています。この大会は全国数十か所の関係者が一産地に会して様々な角度から「お茶とその文化」を考えようというものです。日本茶の品評会をメインに茶業機械の展示会など多彩な催しが予定されています。

こうした中で昨年11月23日には朝宮茶まつりが行われ「朝宮茶宣言」を採択し朝宮茶の原点である山茶と茶壺を初披露するなど意欲的な取り組みを示しました。

「朝宮茶宣言」では朝宮茶を、①信楽高原の厳しい自然条件下で作り出された天然由来の加工農産物、②着色・着味・発色などの添加物を過去にも使用しなかったことがなく、今後とも使用しない、③山・川・里を大切に豊かな香気をさらに



写真上：朝宮茶まつりでは山茶と茶壺の口切も披露されました
写真下：将軍家に献上された信楽焼の「腰白茶壺」



時空を越えて 上西定雄

甲 南町忍の里電法師の一面には、江戸期の古い酒蔵や赤レンガ造りの煙突が残っているところがあります。また、今でも蔵内で醤油を作っておられるところもあり、両側に焼板ベイの古い建物が並ぶ路地を歩いているとタイムスリップして、昔にかえった気持ちになり心が落ち着く場所があります。近くには、甲賀流忍術屋敷もあり皆さんも一度ゆつくりと散策してみたいかがでしょうか。



昔の面影が残るレンガ造りの煙突

少し歩き疲れば、近くには創業以来300余年の伝統をもつ橋酒造の醸造蔵を建物の構造や屋根をそのまま使用した喫茶「然酒館」もあります。ここではきき酒が楽しめる店内には古い酒樽で作ったテーブルや椅子があり、ゆつくりとコーヒーを味わうのも良いと思います。まちかど特派員の2年間はとても楽しかったです。顔写真入りで自分の書いた記事が掲載されることで、それを読んだ方から「面白かった」とか「ためになつた」との感想を聞くこと記事の内容の重要さを改めて再認識させられました。活動中、テーマを取り上げるにあたり読んだ人が話題のきっかけになったり、地元の人からティア活動、また町内のお勧めしたい場所の再発見など自分なりに模索し活動していくうちに視野が広がり、いろいろな人と話すチャンスが増え、自分にとって大いにプラスになりました。

歴史のまちかど「油日駅」 瀬古彰司



油 日小学校の近くに平成13年3月に完成したJR油日駅は忍術のまちに相応しい駅舎として、親しまれています。朝は通勤客が確実に座れる駅として愛され、昼間は観光客が訪れます。特に春は桜の油日駅として賑わい、油日神社経由で機野寺の観音さんの参拝やハイキングコースとして、りんご園や油日岳の登山客がこの駅を利用されています。

また、この駅の周辺には知られざる名所として室町時代の中世城郭が多く存在しています。北に向かえば機野の五反田城は織田信長に仕えた武将の一人である滝川一益の居城があり、油日駅の正面の和田には和田惟政の居城の殿山や和田城があります。15代足利將軍になった義昭が奈良から逃れて隠れた公方屋敷跡や、さらに西に向かえば毛蔵には瀬田の唐橋を造った武将山岡景隆の山岡城、田堵野には忍術の巻物「萬川集海」を伝える大原氏の城館などがあり、近くの油日山崎には上野氏の築いた大広大な中世山城が存在します。織田信長に関係した武将が、さらに甲賀武士が忍びの術を駆使して活躍した地域、この駅は強者共の夢のあとを訪れる素敵な歴史のまちかどです。

また「山茶」の披露は、朝宮の林間に自然生育した茶葉を半年間、茶壺に保存して会場で口切、味わってもらおうという試みです。童歌「お茶壺道中」にもあるように徳川時代、將軍家愛飲の茶は信楽焼の茶壺に密封され遠く江戸まで運ばれ、茶文化は全国に広まりました。

日本茶は多くの嗜好飲料の中で最も消費量の多い飲物ですが、茶をいれたくシートの多様化からやや放縱に流れていることも否定できません。宣言と山茶披露は、茶葉の原点と文化的伝統を深く学ぼうというものです。なお、日本茶葉発祥の地とされる朝宮「仙神寺」では恒例の本尊・十一面観音に祈りを捧げる感謝祭、元火拜受のおこないも茶農家が集まって行われました。2年間、まちかど特派員活動を楽しめました。次年度のまちかど特派員さんに期待しています。

素敵な 甲賀で 見つけた まちかど

甲賀には春には桜、夏はまつりなどこれまで紹介してきたたくさん素晴らしい所があります。しかしまだまだ私たちの知らない素敵なところがたくさんあるのではないのでしょうか。今回はまちかど特派員の皆さんが見つけた素敵な「まちかど」をご紹介いたたくともに、特派員の仕事を振り返っていただきます。